

摂食・嚥下障害看護認定看護師

「食べる」ことは私たちにとって欠かすことのできない行為であり、楽しみでもあります。摂食嚥下障害とは、その「食べる」ことが困難となり、十分な栄養や水分を摂ることができなくなった状態のことです。その原因は脳血管疾患やがん、神経難病、加齢に伴う食べる能力の衰えなどと様々な要因が挙げられます。その対象は小児から高齢者までと幅広く、人間の一生を通して関わっていきます。

摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割は、摂食嚥下障害のある患者さんへの嚥下評価や食事介助方法の確立、スタッフへの口腔ケアや安全な摂食時のポジショニング、食事介助方法の指導教育、栄養サポートチーム（NST）活動への参加、摂食嚥下機能低下の評価・誤嚥性肺炎・窒息・低栄養・脱水等の予防を目的としたリスク管理が主に挙げられます。

医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、栄養士など多職種と協働し、患者さんの「食べる」ことへの楽しみや喜びを大切にしたいQOLの向上、栄養摂取することの意志決定を支援していきます。



田邊 敬博